

研究の概要

学校教育目標

人との関わり・つながりの中で 自分を高める 実行力の育成

～「なりたい自分」に向かって 考える・決める・実行する 強さを育てる～

研究主題

戦略的「しかけ」を通して 自己肯定感を育む

集団や個を高めたり、一人一人の学力定着を図ったりするための、意図的な手立て、支援、指導計画等のこと

自分が自分であることに満足し、価値のある存在として受け入れられること。
自己効力感、自己有用感を内包する。

自己肯定感

「やればできる！」

自己効力感

「自分にはよいところがある！」

自己有用感

本校では下表の通り、授業研究を進めてきた。

年度	主な視点(資質・能力)	中心となる教科
R1	思考力・判断力・表現力	道徳科
R2	思考力・判断力・表現力	学級活動(1)(2)(3) 道徳科
R3	「気付き」を次の学びへ	学級活動(1)(2)(3)
R4	主題 なりたい自分を目指して、しっかり考え、自分で決めて、実行する子の育成 ～自己肯定感を高めるための集団づくり・自分づくり・授業づくり～	
	意図的な「しかけ」	学級活動(1)(2)(3) 算数科
R5	主題 戦略的「しかけ」を通して 自己肯定感を育む	
	自己肯定感	算数科、その他
R6	主題 戦略的「しかけ」を通して 自己肯定感を育む	
	自己肯定感	指定なし

本校では、自己肯定感の育成を目指すことを中心において研究を進めている。学校教育全体や、授業の中で育成していきたい資質・能力は数多くあるが、そのどれもが自己肯定感を土台として初めて成り立ち、育成されていくと共通認識した上で(㊦1)、その自己肯定感を育むための戦略的「しかけ」を授業の中に組み込み、質を深めてきた。効果を検証できる。目的が明確で、具体的である。他教科の授業でも汎用可能である。という「視覚化」「具体化」「一般化」された「しかけ」を戦略的「しかけ」と設定し(㊦2)、また、その戦略的「しかけ」の主な対象として焦点化児童を設定した。戦略的「しかけ」

け」によって焦点化児童に対し、どのような効果が期待できるのか授業者が想定し、それを視点にして事後研で意見を交流してきた。

一昨年度、各学年から提案された戦略的「しかけ」は A「主体性」と B「協働性」2つの資質能力の向上を意図したものになっていた。よって昨年度はその2つの資質能力にスポットを当てて研究活動を進めてきた。

A「主体性」としては学習に対する「自己調整力」「自己決定力」に着目した。自分自身の学習活動に対するふり返しを行ったり、そのふり返しから次の自分の取組についての方向性や目標を定めたりする内容であり、児童の個別最適な学びを意図したしかけである。

B「協働性」としては「コミュニケーション力」「相互理解力」に着目した。自分の取組を他者によって価値付けされたり、自分でも気づかなかった自分の良さに気付いたりできる機会を与える内容であり、児童の対話的な学びを促進するしかけである。

主題に迫るためには、A「主体性」と B「協働性」両方に刺激を与えるような戦略的「しかけ」を授業の中に組み込み、1時間の授業の中だけではなく、単元を通して A「主体性」と B「協働性」を両輪で育成していく必要がある。その中でも昨年度の取組から、A「主体性」の育成を図れるように共通認識し、主題に迫ってきた。普段の授業から丁寧に、焦点化児童をはじめとする学級の児童の様子を見取りながら、自己肯定感を育てている。

また、今年度は「生徒指導の充実に向けた実践研究」推進事業の指定を受けている。本事業の趣旨に則り、生徒指導の実践上の視点をもって授業研究を進めている。

参 1



参 2

